

「水と緑の北白川」だより

No.11

発行日 平成15年5月20日

白川源流と疏水を美しくする会
会長 村松 光男
会連 絡先 791-5012

《京都大学植物園》



京大植物園は北都理学部にあり、北白川西町の住宅街に隣接して、北白川学区民にとつて大変身近なところにあります。ご年輩の方々には若い頃よく出かけたお話を聞きますが、最近の人はあまりよく知らない方が多いようです。

1923年に開設されたから、今年でちょうど80周年。府立植物園のように花や植物を觀賞して楽しむのではなく、国内外から多くの学術的に珍しい植物が集められ、生態系や系統分類学の研究・教育の場として活用され、今日まで多くの研究者が排出しています。

実はこの植物園も、造園以来、園内の幾つかの池に疏水の水が利用されています。あらゆる植物はもとより園内に集まってくる鳥や昆虫をはじめとする生物もすべて疏水の水が生命の源なのです。学術的に

も大変意義深く、折しも今年3月、京都を中心に世界水フォーラムが開催され多くの水問題や環境について学んだところ。私共の会も、この京大植物園がいつもでも学術的な、研究・教育の場として大切に保護され、地域住民や子どもたちにとつて楽しい自然観察やこころの癒しの場となることを願ひ、疏水の水をはじめ周辺の美化活動や環境保存に努めたいと思つています。

ところで昨秋来、この植物園の自然観察会を一般の方々にもできるようお願いしてましたところ、今後、定期的に開催して頂けることになりました。(すでに4月10日、5月25日に実施)ホームページでもご案内されますが、人数制限があり、あくまで研究の場なのでモラルを守って下さい。

